

Vol.
12

日本海でも藻場造成やっています

2021/12/25 自然環境部 海域担当チーム 伊藤 将孝

2021年も残り数日となりました。弊社拠点のある札幌・函館は雪景色となり、すっかり冬の様相です。今回もさっそくライブカメラ前に設置したコンブ育成用の施設の最近の映像をご覧ください。



写真1 水中ライブカメラ映像(2021年12月7日)

夏頃のコンブの量からかなり減少している様子が確認できます。これはvol.9でご紹介した「末枯れ」という現象と波浪などの影響により減ってしまったと考えられます。「末枯れ」は、コンブが秋～冬にかけて子供（遊走子）を放出するための生理的な現象で、写真1の施設で育ったコンブたちも、多くの子供たちを産み落としてくれたことでしょう。

来年の春には産み落とされた子供たちが、再びコンクリート板ひいては周辺の岩盤などでも成長した元気な姿をみせてくれることを願ってやみません。

これまでは、函館のライブカメラ前のコンブの様子をお伝えしてきましたが、他の地域でも同様の施設を設置して試験を行って

います。次の写真は北海道の日本海沿岸に設置した施設で、周りの岩礁等と比較して多くのコンブを生やすことができました。



写真2 日本海沿岸に設置した施設の写真(2021年5月)

この海域では、上記施設の設置のほか、以前からコンブの母藻散布やコンブを食べてしまうと考えられているウニ等の密度管理等を行っています。下の写真に示すように、手入れをしたところでは海藻も見られ、手入れの成果が表れました。気候や漁業資源の著しい変動など、目まぐるしく環境が変化する現代において、手入れの重要性を強く感じます。

写真3 海底の様子(左右ともに2021年5月の様子)
(左:母藻散布、ウニ密度管理を実施。右:周辺の海域)